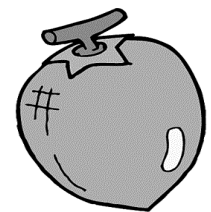


柿栽培技術情報（6月の管理）



令和7年5月30日
宮城県大河原農業改良普及センター

《6月の管理のポイント》

6月は、炭そ病と落葉病の重点防除期間です。
落葉病と炭そ病は降雨により感染が拡大します。降雨前に薬剤防除を実施しましょう。

1 気象経過

平均気温は4月下旬から5月上旬は平年並みで推移しましたが、5月中旬からは平年よりも高く推移しました。また、降水量は平年並みで推移しました。

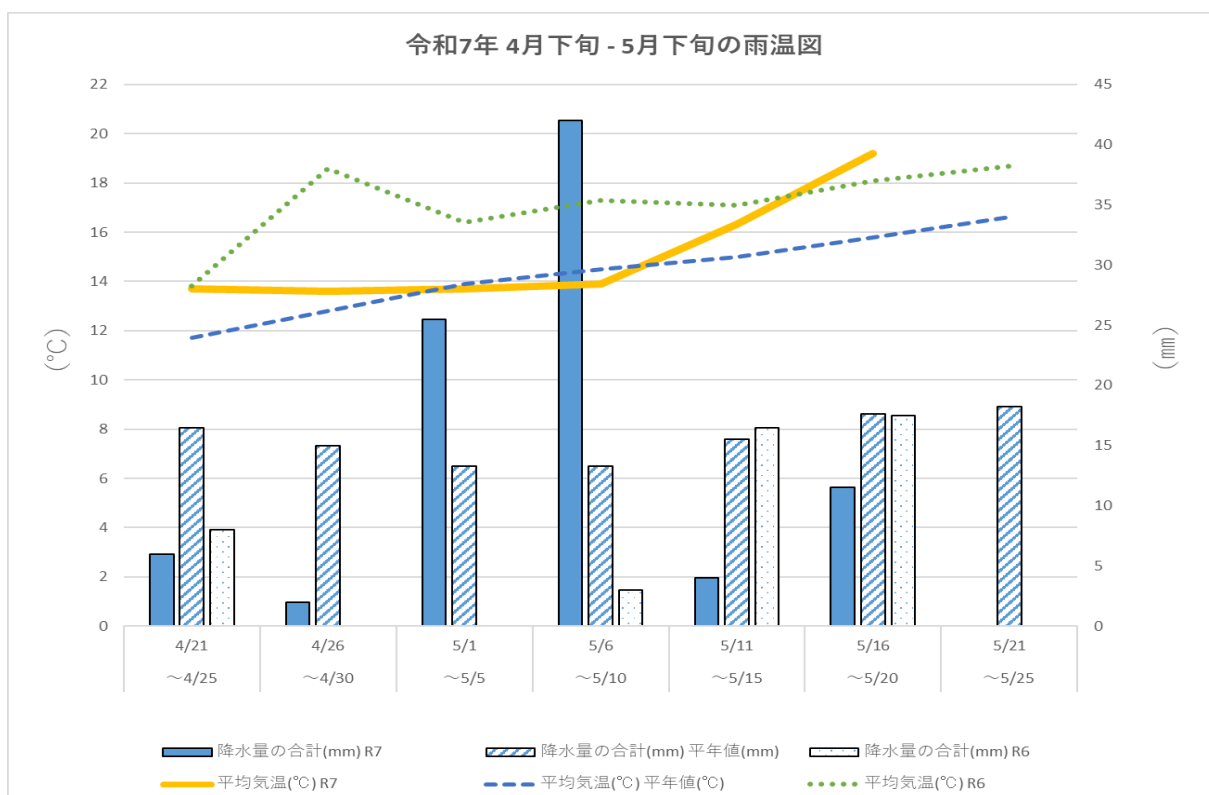


図1 アメダス丸森地点の半月別平均降水量及び気温の経過
(棒グラフ：平均降水量、折れ線グラフ：平均気温)

2 生育ステージ（普及センター調べ）

		発芽期	展葉期	開花始	満開期
生育ステージ 「蜂屋」					
丸森町	本年	4/5	4/19	—	—
	昨年	4/5	4/17	5/22	5/26

開花始：樹全体の20%~30%が開花した日

満開期：樹全体の80%が開花した日

3 早期落果について

- ・落果の主な要因は、受精不良と栄養条件の偏りです。
- ・かきは開花後の6月に生理落果が多くなります。生理落果の終了まで摘果は控えてください。

4 6月の栽培管理

芽かき

- ・骨格となる枝の直上に発生した新梢や枝が伸びる方向に逆行する新梢は、養分の浪費を防ぐため早めに除去します。
- ・大きな切り口に発生した新梢は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促進します。
- ・弱い新梢は、次の年の側枝に育成することもできます。

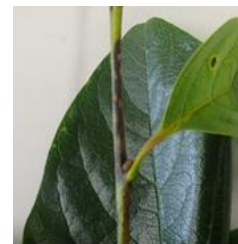
5 病虫害防除

- ・かきの生育ステージを確認し、遅れないように防除を実施しましょう。
- ・散布回数や散布量の見直しを行いましょう。適正な肥培管理、通風採光をよくするなどして発病しにくい栽培環境づくりに努めてください。

(1) 炭そ病

イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
活動適温 : 20～27℃ (15℃程度から感染する)
伝染経路 : 水 (雨や朝露など)
感染と発病 : 植物体に侵入し 7～10 日程度で発病



【炭そ病の新梢病斑】

ロ 6月の防除のポイント

- ・10日～15日間隔での薬剤散布
- ・散布後1～2日程度、降雨の心配がない日を選んで防除する。
- ・炭そ病斑の出た新梢・徒長枝・果実は除去し、園外に持ち出す。

(2) 円星落葉病

イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
活動適温 : 20～25℃ (最低温度 10℃)
伝染経路 : 風 (降雨によって胞子が飛散)
感染と発病 : 梅雨時期に葉に感染、2～4か月以上の潜伏期間を経て発病
(2次感染なし)

ロ 6月の防除のポイント

- ・10日～15日間隔での薬剤散布

(3) 角斑落葉病

イ 特徴

- 病原菌 : 糸状菌
活動適温 : 30℃前後 (最低 10℃)
伝染経路 : 風 (降雨によって胞子が飛散)
感染と発病 : 梅雨時期に葉に感染、1か月程度の潜伏期間を経て発病
(2次感染あり)

ロ 6月の防除のポイント

- ・円星落葉病と同じです。

(4) カキクダアザミウマ

イ 生態

加害部位 : 若葉や果実

被害の特徴 : 果実に黄褐色の小斑点が輪状に出現

形態 : 成虫は体長 2 mm 程度で黒色

越冬場所 : カキやスギ等の粗皮内

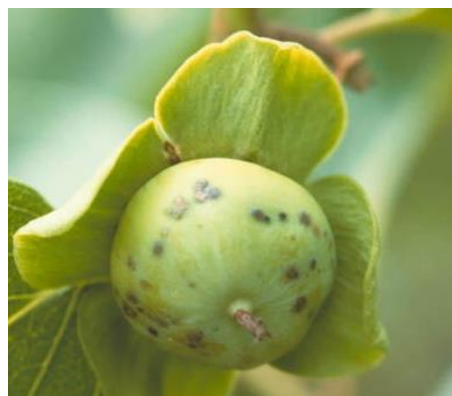
発生回数 : 年 1 回の発生

ロ 防除のポイント

- ・ 巻葉は見つけ次第除去します。
- ・ 薬剤防除は 5 ～ 6 月に実施します。
- ・ スギなどの樹皮でも越冬するため、近くにスギがある園地では特に注意しましょう。



【カキクダアザミウマによる葉の被害】



【カキクダアザミウマによる果実の被害】
奈良県 HP より引用

【農薬使用上の注意】

- ・ 農薬を使用する際には、事前に最新情報で農薬登録を確認し、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布等を行う場合は、飛散防止対策を講じてください。

6 今後 1 か月の気象予報

東北地方 1 か月予報 (05/31～06/30)		
2025年05月29日14時30分 仙台管区気象台 発表		
向こう 1 か月 05/31～06/30	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わってでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 50 % です。
1 週目 05/31～06/06	気温	1 週目は、平年並の確率 50 % です。
2 週目 06/07～06/13	気温	2 週目は、高い確率 50 % です。
3 ～ 4 週目 06/14～06/27	気温	3 ～ 4 週目は、高い確率 50 % です。